

3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（平成24年確定）

1) 普通作物

(1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	床土消毒や育苗管理が適正に行われたため、全般には少なかった。
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	6月中旬以降高温で経過し、発生に不適な条件だった。早植・普通植ともに発生は少なかった。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	少ない発生であった。	葉いもちの発生が少なく、8月の気温が高く降水量も少なかったため、発生に不適な条件だった。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや少	8月以降に発生が見られ、平年並みだった。	7月、8月は高温で経過したが、降水量が平年より少なかったため、平年並の発生だった。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや少	育苗箱での発生が一部で見られたが、少ない発生だった。	
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	平年よりやや少ない発生だった。	穂ばらみ期の7月中下旬が高温で経過したため、発生に不適な条件だった。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：やや多	県南部を中心に発生ほ場が多くみられ、一部で要防除水準を超えるほ場も見られた。一方、これまで発生が少なかった県中北部にも、程度は軽いが拡大している。	4年前から県南部で発生が増加し、一部でヒメトビウカの保虫率が高い地域が見られる。8月上旬本田でのヒメトビウカの発生量もやや多かった。
黄萎病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	県中北部の一部で発生程度の高いほ場がみられたが、県全体としては少なかった。	ツマグロヨコバイの箱施用剤防除が行われていない地域で発生程度の高いほ場が見られる。
ヒメトビウカ	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：多 前年：並	本田の飛込み時期はやや遅い傾向。5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は多。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
ツマグロヨコバイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査の発生量は平年並。	本県への飛来はやや少なかった。
トビイロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少なかった。
ニカメイガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生量はやや少ない。7月中旬の心結茎の発生株率はやや少なく、8月下旬から9月上旬の白穂の発病率は県中を中心にやや多い。	越冬幼虫の発生程度はやや少なかったが、7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	予察灯における誘殺数はやや少ない。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、発生量はやや少なかった。
イネツトムシ（イチモンジセセリ）	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	7月上旬の発生程度は平年並、7月下旬、8月上旬はやや少なかった。	7月下旬に気温が低く、発生にやや不適な条件であった。適切な箱施用剤の使用により発生が抑制された。
イナゴ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は平年並であった。	
斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや多 前年：やや少	7月中旬のイネ科牧草地での発生量は平年並。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量はやや多い。クモハリカメムシは平年並、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメはやや多、ホソハリカメムシはやや少ない。	6月中下旬の気温が低く、クモハリカメムシの越冬地からの飛来やカスミカメ類の発生は遅れたと考えられる。7～8月の気温は高く推移したため、その後の発生には好適な条件であった。

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	県南の小麦ほ場の一部で発生が見られた。	
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	5月中旬調査では県全域で散見された。5月下旬調査では六条大麦・小麦の調査ほ場64ほのうち82.8%のほ場で発生が見られたが、程度は軽かった。	4月中旬の低温と下旬の高温により、大麦を中心に不稔粒が発生し、5月上旬の多雨により赤かび病の発生が助長された。しかし、5月中旬以降の高温と少雨によりその後の拡大は抑制された。
大麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	二条大麦はⅢ型抵抗性品種に切り替わった。
小麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：やや少ない	本年の4月中旬調査では、調査ほ場392のうち13.3%のほ場で発生が見られた。また、県央部では程度の高いほ場が見られた。	前年、発生が多かった地域の一部で抵抗性品種や大麦への作付転換が行われたが、まだ対策が進んでいない地域では程度の高いほ場が見られる。
大麦斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。
小麦赤さび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	少ない発生であった。	

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少		9月中旬～10月上旬の気温が高く、降水量が平年並～少ないまま推移したため、発生に不適な条件であった。
べと病	平年：－ 前年：－	平年：平年並 前年：やや多	8月中旬はやや少、9月上旬はやや多くなった。	8月中旬に降水量が多く、発生に好適な条件となった。
コガネムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	県北の予察灯では7月を中心としてオオクロコガネ誘殺数が多くなった。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫の発生が多い傾向にある。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや少	8月中旬は平年並、9月上旬はやや多かった。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
ダイズサヤタマバエ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並		
シロイチモジ マダラメイガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並		
マメシクイガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並		
吸実性カメムシ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：多 前年：多	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの誘殺はやや早い傾向。水銀灯予察灯による誘殺数は、クサギカメムシは多く、アオクサカメムシは平年並、イチモンジカメムシはやや少。 ほ場での吸実性カメムシ類の発生程度は8月中旬、9月上旬とも多く、子実の被害も多かった。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチヒゲカメムシ、クサギカメムシが観察された。7～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや遅	平年：多 前年：並	フェロモントラップによる成虫誘殺はやや早くやや多い傾向。 大豆における幼虫の発生ほ場率は8月中旬は高く、9月上旬は平年並。幼虫頭数は9月上旬は若齢～中齢を中心に多く、発生程度は多。	8～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であったが、9月上旬に降水量が多く、発生がやや抑制された。
フタスジヒメハムシ	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：並	発生程度は、8月中旬は多、9月上旬は平年並であった。	8～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であったが、9月上旬に降水量が多く、発生がやや抑制された。

2) 野菜

(1) いちご(親株・育苗床：平成24年6～9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：少	例年よりやや早い発生であったが、育苗期の発生は平年並であった。	昨年の発生が多かったことから、発生が早いほ場では親株の潜在感染によるものと考えられた。
萎黄病	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	7月に一部のほ場で発生が認められ、9月の調査では散見されるほ場が増え、やや多い発生となった。	前作の本ばで発生が見られた生産者において、発生が見られたことから、汚染土壌の混入によるものと考えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	7月にごく一部のほ場(親株)で発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	6月の発生は平年並で、7月に入って発生が増したが、その後は減少した。	6月の低温により7月の発生は多くなったが、7月以降は高温のため発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	親株、育苗期間を通して平年並の発生となった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	親株はやや多く、7月以降は平年並～やや多い発生であった。	夏季の気温が高く降水量も少なく、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
コナジラミ類	平年：並	平年：やや少	親株、育苗期間を通してやや少ない発生であった。	

(2) いちご (本ば:平成24年10月~平成25年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年: やや早 前年: 並	平年: 並 前年: 少	全般にやや少ない~平年並の発生であった。	育苗期から発生が認められ、本ばでの発生は感染苗の持ち込みによるものと考えられた。
萎黄病	平年: やや早 前年: やや早	平年: やや多 前年: やや多	定植直後から発生が認められ、全般にやや多い発生であった。	前年度に発生したほ場で発生が目立ち、主に土壌伝染による発生と考えられた。
灰色かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	12月までは少なく、1月に多い発生となったが、その後は平年並の発生となった。	12月の低温、多雨(降雪)、日照不足により一時的に発生が多くなった。
うどんこ病	平年: やや遅 前年: やや遅	平年: 並 前年: 並	11月まではやや少ない~平年並の発生で、12月からやや多くなったが、2月以降は平年並の発生であった。	10月までの高温により発生が抑えられたが、気温の低下によって発生に好適となった。
アブラムシ類	平年: 並	平年: やや多	10、11月に多く、その後は並~やや多で推移したが、3、4月には発生が多かった。	ラノーテープの使用による防除圧の低下、天敵などへの影響を考慮した薬剤選択の変化によるものと考えられた。
ハダニ類	平年: 並	平年: やや多	11月までは平年並みであったが、その後はやや多く推移し、4月には並となった。	有効薬剤の殺虫効果が低下したことが要因と考えられた。
コナジラミ類	平年: 並	平年: やや少	全般的にやや少ない発生であった。	

(2) 夏秋トマト (平成24年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	全般に少ない発生であった。	6月は発生に好適であったが、7月、8月は高温、少雨であったため発生が抑えられた。
灰色かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	6月はやや多い発生であったが、7月以降平年並の発生となった。	7月、8月は高温、少雨であったため発生が抑えられた。
葉かび病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: 並	生育初期は少なかったが、生育後半は一部のほ場でやや多い発生であった。	耐病性品種が中心に作付けされているが、一部耐病性品種で発生しており、新しいレースの発生が疑われた。
モザイク病	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	全般に少ない発生であった。一部のほ場でトマトモザイクウイルス(ToMV)新系統によるえそ症状発生株が散見された。	
黄化葉巻病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	全般に少ない発生であった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。
アブラムシ類	平年: 並	平年: 並	6月には多くみられたが、その後は少なく推移した。	
コナジラミ類	平年: 並	平年: やや少	6月は平年並みの発生であったが、その後はやや少なく推移した。	
ハモグリバエ類	平年: 並	平年: やや多	6~7月はやや多く、8月は平年並みの発生であった。	ハモグリバエを対象とした防除回数の減少、他の害虫発生が並~やや少なく防除圧が小さかったことなどが、前半にやや多かった要因と考えられた。

(3) 冬春トマト (平成24年10月~平成25年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	12月に一部のほ場で発生が認められたが、全般に少ない発生であった。	11月、12月の低温、多雨により発生に好適となった。
灰色かび病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	12月、1月はやや多い発生であったが、2月以降平年並~やや少ない発生で推移した。	11月、12月の低温、多雨により発生に好適となった。
葉かび病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	10月から発生が認められ、徐々に発生ほ場が増加した。	耐病性品種が中心に作付けされているが、一部耐病性品種で発生しており、新しいレースの発生が疑われた。
モザイク病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	全般に少ない発生であった。一部のほ場でトマトモザイクウイルス(ToMV)新系統によるえそ症状発生株が散見された。	
黄化葉巻病	平年: やや早 前年: 並	平年: やや多 前年: 並	育苗期から発生が認められ、全般にやや多い発生となった。	育苗期の感染や感染苗の持ち込みによる発生が考えられた。
アブラムシ類	平年: 並	平年: 並	その後は少なく推移したが、4月に多かった。	コナジラミ類などを対象にした防除により、増加が抑制された。
コナジラミ類	平年: 並	平年: やや少	少~やや少で推移した。	黄化葉巻病対策としてコナジラミ防除が徹底された。
ハモグリバエ類	平年: 並	平年: 少	少~やや少で推移した。	コナジラミ類などを対象にした防除により、増加が抑制された。

(4) 夏秋なす(平成24年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：並 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	全般にやや多い発生であった。	軟弱に生育したため6月から発生が見られ、その後もやや多い発生で推移した。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半萎凋病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	7月に一部のほ場で見られた。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
青枯病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	全般的に多い~やや多い発生であった。	夏季の気温が高く降水量も少なく、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	全般的に平年並みの発生であったが、7月の発生は多かった。	夏季に高温少雨で推移したことが7月に発生が増加した一因と考えられる。その後は、適切な防除による平年並みの発生となった。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	6月は平年並みの発生であったが、その後は多く推移した。	夏季の気温が高く降水量も少なく、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。

(5) 夏秋きゅうり(平成24年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	
べと病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	全般的に少ない発生であった。	7月、8月は高温、少雨であったため発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	生育初期から発生が見られ、全般にやや多い発生であった。	7月、8月の高温により発生が助長された。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	6月に一部のほ場で発生が目立ったが、7月以降やや少ない発生であった。	
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	6月の気温は平年よりも低く発生に好適であったが、7月、8月は高温、少雨であったため発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：並	平年：やや少	6、7月は少ない発生であったが、9月にはやや少ない発生であった。	
アザミウマ類	平年：並	やや多	6月は多く、7月はやや多く、9月には平年並みの発生であった。	夏季の気温が高く降水量も少なく、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	6月は多く、7月は以降はやや多い発生であった。	高温少雨で発生に適した条件であったと考えられる。

(6) 冬春きゅうり(平成24年10月~平成25年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	12月はやや多い発生となったが、全般に平年並みの発生であった。	11月、12月の低温、多雨により発生に好適となった。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	全般にやや多い発生であった。	
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	12月までは一部のほ場で発生が目立ったが、1月以降やや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：並	平年：やや少	平年並み~少で推移した。	
アザミウマ類	平年：並	やや多	並~やや多で推移し、11月と4月は多かった。	主要薬剤の殺虫効果の低下が主要因と考えられる。
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	

(7) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	11月までは少ない発生であったが、12月以降多い発生となった。	11月、12月の低温により発生が助長された。
白斑葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般的に平年並の発生であった。	
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	
株腐細菌病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	
ネダニ	平年：並	平年：やや多	多～やや多で推移した。	有効な対策があまり取られておらず、昨年からの発生が続いている。

(8) 秋冬ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	7月、8月は高温、少雨であったため発生が抑えられた。
べと病	平年：やや早 前年：早い	平年：やや少 前年：やや少	7月はやや多い発生であったが、8月以降は少ない発生となった。	6月の低温により7月の発生は多くなったが、7月以降は高温のため発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	7月は少なかったが、8月以降増加し、9月には多い発生となった。	
萎縮病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年：並	平年：やや少	7月は少なかったが、8、9月は平年並みであった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年並	平年：やや多	7月は多かったが、8月はやや多く、9月には平年並みとなった。	生育期には寄生が多いものの、収穫前の適切な防除により被害は抑えられた。
ハモグリバエ類	平年並	平年：並	7、8月はやや多かったが、9月には少発生となった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギコガ	平年並	平年：並	7月は多かったが、8月以降は減少した。	適切な防除により発生が抑えられた。

(9) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	4月までは少ない発生であったが、5月になって発生が多くなった。	
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	全般的にやや多い発生であった。	
アザミウマ類	平年：並	平年：並	全般的に平年並みの発生であった。	

(10) 秋冬はくさい

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	全般的にやや少ない発生であった。	
べと病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月、10月の高温により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	
軟腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	
ウイルス病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	アブラムシ類の発生はやや少なく、適切に防除された。

(11) 冬キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
菌核病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月、10月の高温により発生が抑えられた。

(12) あぶらな科野菜(だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少	全般にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(13) 冬レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月、10月の高温により発生が抑えられた。
菌核病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	9月、10月の高温により発生が抑えられた。
軟腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(14) 野菜共通(さといも、だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並	平年：並	フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は、ほぼ平年並みで推移した。	
オオタバコガ	平年：やや早	平年：並	フェロモントラップの誘殺開始は平年より早かったが、総じて平年並みの発生であった。	

3) 果樹

(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	発生時期は平年並で、発生量は5月が少なかったが、6月以降県内全域で多くなった。	開花後(5月上旬)の降水量が多く、日照時間が少なく発生に好適な条件となった。また、多雨により薬剤散布の効果が十分に得られなかったと考えられた。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	5月の発生は少なかったが、6月～8月の発生はやや少～平年並で推移した。	産地のバクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並	平年：並	6月以降増加し、8月には多い発生となった。	高温少雨であったことに加え、薬剤感受性の低下、多発したカメムシ防除による天敵減少などの複合要因と考えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：やや少	一般的に少ない発生であったが、7月に一部のは場で発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	6月の低温により胞子の飛散が少なかった。また、8月は高温であったが、降水量が少なかったため発生が抑えられた。
べと病	平年：早い 前年：やや早	平年：多 前年：やや多	例年より早い時期から発生が見られ、全般に多い発生となった。	6月の低温や一時的な多雨により発生が助長され、その後も多く推移した。
黒とう病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：多	6月から発生が認められ、一部の品種で発生が目立った。	近年、発生増加傾向があり、茎や枝での越冬が多く、全般にやや多い発生になった。
チャノコカク モンハマキ	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤星病	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	産地のバクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	7月までの発生は少なかったが、8月になってやや多い発生となった。	7月下旬の気温が平年よりも低く、降水量が多かったため増加した。
輪紋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：並	一般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや少	5月は平年並み、6月はやや多い発生であったが、その後は少なく推移した。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：早	平年：多	フェロモントラップによる誘殺数は、チャバネアオカメムシ、クサガカメムシともに多で推移した。 果樹カメムシ類の果樹への飛来は、うめ、ももなどで5月ごろからはじまり、その後も多く推移した。 フェロモントラップおよび水銀灯への誘殺数は調査期間を通じて多かった。	越冬世代発生量、第一世代発生量ともに多かったと考えられる。今年のスギヤヒノキの球果収量は少なく、山林からの飛び出しは早くなったと考えられる。
ナシヒメシクイ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みで推移した。一部のほ場で被害がみられたが、適切な防除が行われた。	
モモシクイガ	平年：並	平年：やや多	7月から8月にかけてフェロモントラップへの誘殺が認められ、平年よりやや多かった。	
リングコカクモンハマキ	平年：やや遅	平年：並	6月にフェロモントラップへの誘殺が認められたが、全般的に平年並みの発生であった。	

4) 花き

(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並	平年：やや少	7月の発生は多かったが、全体的に少ない発生であった。	6月の低温により7月の発生は多くなったが、7月以降は高温のため発生が抑えられ、その後少ない発生で推移した。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	多から少までの間で増減を繰り返した。	一回の昨が短いため、増減が激しかったものと考えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	平年並み～多で推移した。	特定のほ場で発生が継続する傾向にあった。主要薬剤の殺虫効果の低下や、栽培環境が発生要因と考えられる。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	平年並み～多で推移した。	主要薬剤の殺虫効果の低下が主要因と考えられる。